

1 PLAN(目的・概要)

建設整備事業

政策名	物流・産業		28年度事業・施策評価結果			責任者	建設部 事業推進課長	
施策名	国際・国内海上輸送機能の強化		成果	コスト				
事務事業名	飛島ふ頭東側コンテナターミナルの機能強化事業		継続	維持	維持	連絡先 連携課	052-654-7921	
目的	対象(誰・何を)	大型船によるコンテナ輸送機能					事業 期間	平成28~35年度
	意図(どうい う状態にしたいか)	飛島ふ頭東側において船舶大型化や老朽化への対策を進め、コンテナターミナルの取り扱い機能強化を図ります						
概要	整備場所: 飛島ふ頭 内容・規模: 東南アジア向けコンテナ貨物の増加やコンテナ船の大型化に対応するため、既存施設の老朽化対策と併せた水深15mへの増深改良 全体工事費: 325億円 事業手法: 直轄事業、貸付金事業						根拠 法令等	社会資本整備重点 計画法 名古屋港港湾計画
事業着手時点の 評価	本事業を実施することにより、大型コンテナ船の喫水調整が解消され、輸送コストが削減されます。また、今回の改良に合わせて岸壁が耐震化されるため、震災時における代替港までの輸送費用が削減されるほか、岸壁の復旧に係るコストが削減されます。 費用対効果は、飛島ふ頭地区ふ頭再編改良事業全体で4.8です。						実施 義務	<input type="checkbox"/> 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無
29年度の実施予定	国が飛島ふ頭東側コンテナターミナルR1岸壁について、水深15m化、耐震化の設計および改良工事を行い、その内容について協議を行います。						関連 シート	

2 DO(実施)

29年度に実施した 内容・結果	国が飛島ふ頭東側コンテナターミナルR1岸壁について、水深15m化、耐震化の設計及び改良工事を行い、その内容について協議を行いました。						
コスト	単位	27年度	28年度	29年度	合計(平成28年度~)	備考(費用の増減理由等)	
工事費	千円	-	(105,000)	(1,452,000)	(1,557,000)	工事費の()は、国費負担分を含んだ金額です。	
人件費	千円	-	5,017	2,941	7,958		
合計	千円	-	40,017	486,941	526,958		

3 CHECK(検証)

指標名		27年度	28年度	29年度	中間目標	30	指標の説明・目標値の考え方	外部要因
事業進捗状況 (全7工程)	目標	-	1	1		2	以下の項目のうち、完了した工程数を合計します。 【①事業採択、②調査設計、③R1岸壁改良、④R2岸壁改良、⑤泊地、航路泊地浚渫、⑥埠頭用地整備、⑦荷役機械整備】	
	実績	-	1	2				
(進行管理型)	事業進捗状況(29年度)			順調・やや遅れ・遅れ				
	目標							
	実績							
	事業進捗状況(29年度)							
目標の達成度に対する評価 (外部要因等を踏まえた)	予定通り順調に事業が進捗しています。							
必要性・有効性・効率性の検証	評価	評価に関する説明						
必要性	○	コンテナ船は大型化が進んでおり、大型船に対応した港湾施設の整備の必要性は高いと考えております。						
有効性	○	飛島ふ頭東側におけるコンテナターミナルの機能強化は、上位施策の「国際・国内海上輸送機能の強化」に資すると考えております。						
効率性	○	本事業は施工中であるため、成果の評価は対象としておりません。						
	○	コストが最小となるよう精査して事業を進めています。						

4 ACTION(取組)

施策評価結果	30年度以降の方向性			判断理由
		成果	コスト	
	継続	維持	維持	船舶の大型化や施設の老朽化に対応するため、着実に事業を進めていく必要があるため。
	取組及び資源(財・人)の投入は妥当である。現状を維持する。			
課題				30年度以降の取組
船舶の大型化や施設の老朽化に対応するため、コンテナターミナルの荷役作業に大きな支障が出ないよう、事業を進めていく必要があります。				着実な事業進捗が図られるよう国と協議していきます。また、関係者調整を行いながら、着実に事業を進めていきます。